

酷暑の砌 宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部会員の皆様には、お変わりなくお過ごしのことと拝察致し、先ずは暑中お見舞いを申し上げる次第です。

今年の梅雨は中国、東海、近畿地方から開け始めて、関東や東北に遅れて南九州、最後に北部九州と梅雨前線に翻弄されましたが、宮崎県は大した雨も降らず何よりでした。

しかし福岡や佐賀、大分、或いは秋田等一部限られた地域ではいわゆる「線状降水帯」による土石流や洪水等が生起し多くの人命財産が奪われており、被災された皆様には衷心からのお見舞いと、一日も早い復旧や復興をご祈念申し上げます。

先月は自衛隊関連行事が一件も無く、特段皆様にお知らせする事はありませんが、4月6日の宮古島ヘリ事故犠牲者のお一人である第8師団司令部の神尊皓基3等陸佐、及び6月14日の岐阜射撃場に於ける自衛官候補生発砲事件犠牲者のお一人、菊松安親1等陸曹は宮崎市内のご出身で、心よりご冥福を祈らずにはおられません。（何れも事故当時の階級）

小銃からミサイル、そして戦車やヘリコプター等を操って祖国を守る自衛官に危険は付き物とは云え、訓練等で命を落とす事があるとはならず、まして隊員の銃で撃たれる等は想定外の事件で、いくら安全管理を徹底してもこれは防ぎようが無いように思われます。

大凡40年前も山口県で同様の事案がありましたが、精強な自衛官になる為に実弾射撃訓練を積む訳で、再びその銃口が同期や上官に向かう事を恐れてはならず、その後の報道で再発防止を徹底した安全管理のもと実弾射撃訓練を再開した事を知り安堵した処です。

小銃は陸上自衛官の象徴であり、私の記憶では新隊員教育開始後2~3週間して武器授与式と云うセレモニーがあり、中隊長から新隊員一人一人に約4kgの64式小銃を渡され、その重たさと覚えたばかりのシリアルナンバーに何故か興奮した思い出があります。

中隊長から「これは日本を守り、お前達自身を守る銃だから大切に扱え」と訓示され、目隠しでも分解結合が出来るほど自銃に習熟し、特に実弾射撃訓練の後は付着した火薬の煤を除去する為に銃口や遊底の手入れが欠かせず、皆でピカピカに磨き上げ乍ら「俺の小銃が一番光っているぞ」と同期達で自慢し合ったものでした。

個人の資質に依るものとはいえ実に遺憾な事件で有りますが、全自衛隊の叡智を集めて実弾射撃の反復演練を実施し、更なる精強な自衛官を目指して精進すべきと考えます。

気象庁は今夏の平均気温はかなり高めとの長期予報を発出しましたが、皆様には呉々もご自愛専一にお過ごしの上、ほど遠からぬ「秋」にお備え頂ければ幸いです。

令和5年8月1日
宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部長 小倉和彦